

(理工学部：理工学科 応用理数コース)

カリキュラム・ポリシー

応用理数コースでは、理学と工学の知識と技術を活かして創造性を発揮し、イノベーションを創出できる人材の育成をめざす。また、地域社会に知識と技術を還元できる人材、及び世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応し、グローバルに活躍できる人材の育成をめざして、以下のようなカリキュラムを編成している。

1. 学ぶことに対する興味と意欲に溢れる人材を育成するため、豊かな人格と教養を身につけ自発的に学習する態度を養う教育を行う。
2. 事象や課題を論理的に解析できる分析力と探究力をもつ人材を育成するため、理工学の基礎知識を十分に理解させる教育を行う。
3. 数学、情報科学、物理科学、化学、地球科学、生物科学の諸問題を自ら解決し、その方法と過程を表現できる人材を育成するため、専門知識による問題解決力と表現力を養う教育を行う。
4. 確かな知識に基づいて地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成するため、諸問題に柔軟に対応できる自律的応用力と創造力を養う教育を行う。

| 【学修成果の到達目標】 | 【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】 |
|--|--|
| <p>1. 知識・理解</p> <p>(1)数学および自然科学の確かな知識に基づき、複数の理学と工学専門分野を組み合わせ問題解決できる。</p> <p>(2)自然現象の解明や真理の探究を視野に入れて理工学全体を俯瞰できる。</p> | <p>【学修内容】 コース専門科目及び他コース専門科目の履修により、理工学分野の多様な領域に触れる学修を実施する。さらに、系専門科目の履修と教員による指導を通じて、専門的な分野に深く触れる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実験などの専門教育科目における指導。卒業論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 課題レポート・試験等によって到達度を客観的に評価する。</p> |
| <p>2. 汎用的技能</p> <p>(1)情報を収集、処理し、論理的思考の組み立てに活用できる。</p> <p>(2)自らの考えを正しく伝え、異なる文化背景を持つ他者との議論を通じて、世界的な視野で新しい考え方を生み出すことができる。</p> | <p>【学修内容】 教養教育科目において、人文科学や社会科学などの一般教養と情報科学などの汎用的技能を身につける学修を実施する。コース専門科目においては、演習や実験により高いスキルを身につけるための学修を実施する。さらに、技術英語などにおいて、専門英語を活用するための学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目における幅広い分野の教員による指導。講義及び演習・実験などの専門教育科目における指導。卒業論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 課題レポート・試験等によって到達度を客観的に評価する。</p> |
| <p>3. 態度・志向性</p> <p>(1)社会を構成する一員としての権利と義務を正しく理解することができる。</p> <p>(2)自ら考え、行動し、独自のアイデアにより新しいものを創り出すことができる。</p> | <p>【学修内容】 教養教育科目において、一般教養及び職業観や倫理観を身につけるための学修を実施する。さらに専門科目において、演習や実験科目における教員による指導を通じて、主体的に研究活動を行うための学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目における幅広い分野の教員による指導。講義及び演習・実験などの専門教育科目における指導。卒業論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 課題レポート・試験等によって到達度を客観的に評価する。</p> |
| <p>(1)地域社会の課題を認識し、大学の持つシーズと関連づけて解決し、その成果を地域社会に還元できる。</p> <p>(2)世界規模の産業構造や社会経済の変化に柔軟かつ的確に対応できる。</p> | <p>【学修内容】 教養教育科目において、社会科学や地域科学などの諸分野の知見に幅広く触れる学修を実施する。さらに、専門教育科目において、深い専門知識に触れる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目における幅広い分野の教員による指導。講義及び演習・実験などの専門教育科目における指導。卒業論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 課題レポート・試験等によって到達度を客観的に評価する。</p> |